

知っているとちょっといいかも!

ちょっとむずかしいけど
わからないことはコーチや
おうちの人に聞いてみよう



シッティングバレーボール

8月27日(金)~9月5日(日) 幕張メッセ Aホール

コート大きさが10メートル×6メートルとせまく、ネットの高さも男子が1メートル15センチ、女子が1メートル5センチと低い。スパイクやブロックなどでお尻が床から離れると「リフティング」の反則となる。床に手をついてお尻を滑らせコートを移動するため、一人一人の選手がカバーできる範囲は限られる。全員で守り、全員で攻撃するチームワークと献身的なプレーがシッティングバレーボールの魅力だ。6人制と異なり、相手チームのサーブをブロックすることが許されているため、サーブをする選手はブロックの位置を確認し、間を強烈にねらい打つ。上半身だけで強いボールを打ち、正確にコントロールするのは見た目以上に高い技術が必要で、腕だけではなく、上半身をしなやかに使ったフォームに注目したい。アタックはボールが手にあたってから、床につくまでの時間はわずか0.1秒~0.2秒と言われる。そのため一人一人に正確なレシーブやトス、スパイクなど、バレーボールに必要なすべての技術が求められる。また、レシーブの際は手足を使った素早い動きと同時に、相手が打つコースを読む能力も重要になる。トップチームが対戦するとスピーディーなラリーが続くが、選手がコートを縦横無尽に動き、ボールを拾い続ける姿は驚異的。選手の障害の程度は重度と軽度に分けられ、コート上の6人の選手のうち、軽度障害の選手は1人までと定められている。



デフバレーボール

チームメイトの声、審判の笛の音、ボールをはじく音などが聞こえない状態でプレーをするバレーボール。コートや用具、競技形式などは一般のバレーボールのルールと同じである。聴覚障害者はパラリンピックに出場できない。かわりに、デフリンピック (Deaflympic: 聴覚障害者を表す” deaf” と” Olympic” を合わせた言葉で、デフの世界スポーツ大会) を聴覚障害者自身が発言し、4年ごとに開催されている。パラリンピックが広く支援を集める中で、デフリンピックやデフスポーツは、世間に広く知られていないマイナー競技だが、メダルを目指して選手たちはがんばっている。

2021年12月5日~21日にブラジルのカシアス・ド・スルにて開催予定だった第24回夏季デフリンピック競技大会について、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、開催日程について、2022年5月1日~15日に延期されることが2021年2月3日付けでICSD (国際ろう者スポーツ委員会) から発表された。



NOEVIR
GREEN FOUNDATION

このデフバレー教室はノエビア財団の支援によって開催されています。